

ラ フォレ セ ラ ヴィ ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



養蜂活動で村人が収穫したハチミツを持つサワドゴ氏（右）

私は、ブルキナファソのバム県コングシ地域で活動している NGO、AJPEE（環境保全畜産青年協会）で代表を務めているサワドゴと申します。

私たちが「緑のサヘル」と共に活動しているバム県は、ブルキナファソの真ん中よりやや北に位置する中央北部州にあります。住民は大多数が農耕を主とするモシ族ですが、元々は遊牧系だったブル族も少し住んでいます。彼らは農業を中心に、牧畜や野菜栽培、小商いなどで生計を立てていますが、この地域では植生の減退や土壌の侵食、地力の低下が進みつつあり、現在では全体の 70%が農林牧畜に適さない土地になってしまいました。そのため私たちは今、貧困という問題に直面しています。

この現状を改善するために、AJPEE と「緑のサヘル」は、土地の侵食や劣化の防止による生産性の改善、改良カマドの普及や植林による環境保全等の活動をしています。これらの取り組みは、既にいくつかの村では農業収穫の向上や現金収入の増加、村落林の創出等、はっきりとした結果を出すに至っています。もし適うのなら、より多くの住民がこれらの結果を享受できれば、と思わずにはられません。

最後になりましたが、日本の支援者の皆様に感謝するとともに、今後ともご協力のほど宜しくお願い致します。

AJPEE 代表 サワドゴ・ロック・ナゼール

西アフリカの情勢と「緑のサヘル」

－新年のご挨拶にかえて－

緑のサヘル 代表理事 岡本敏樹

2010年から2011年にかけて、「アラブの春」と呼ばれた一連の改革運動が、世界の注目を集めました。エジプトを始めとした国々では開放感にあふれ、民主化が進むと期待されました。その一方で、「アラブの春」の最後を締めくくったリビア内戦は、周辺諸国に大きな余波を与えました。

とりわけ西アフリカ諸国では、リビアからの避難民や兵士が流入し、緊張が高まりました。マリ共和国では政治的な混乱が続き、中央政府の弱体化と以前からの南北対立が深刻化しました。特に北部では、2012年3月にトゥアレグ族の方々が独立を宣言しましたが世界各国から承認が得られず、間もなくアル・カイダ系武装勢力によって支配権を奪われました。アル・カイダ系武装勢力の圧迫に苦慮したマリ政府は国連安全保障理事会に支援を要請し、承認されました。2013年1月11日以来、フランス軍が軍事作戦を展開しています。周辺諸国への影響を懸念した日本政府は、マリと国境を接しているニジェールとモーリタニア、そしてブルキナファソのセキュリティ・リスクを上げました。

地域や場所によって異なりますが、国と国の間に広大な大地が広がるサヘル諸国に暮らす住民は、普段、国境を意識することはありません。常に物や人が行き来しています。このため、ある地域や場所で起こった出来事は、良いニュースであろうと悪い知らせであろうと、波紋のように速やかに広がり、先々で反応を引き起こします。携帯電話が普及している現在では、その速度は驚くばかりです。つまり、国単位ではなく地域で考えなくてはならないのです。現地でプロジェクトを行なっている団体としては、このような動きに敏感でなくてはなりません。

一方で、ブルキナファソのプロジェクト実施地では、これまでと変わらない営みが行なわれています。男性たちは堆肥作りや石堤（ディゲット）設置の共同作業、苗木への水やり等に取り組んでいます。女性たちも、共同作業に参加しつつ、ヒツジの飼育に大きな期待をかけています。

現地の方々のこのような地道な取り組みを、途切れることなく支えていくことが出来るよう、今年も「緑のサヘル」は努力を重ねるつもりです。日本を含めた世界情勢は、年を重ねるごとに混迷さを深めていますが、日々の歩みが次につながる信じて、精進していく所存です。



活動は常に、村人たちと共に進められています。

どうぞ皆さま、今後とも「緑のサヘル」をよろしくお願い致します。

ブルキナファソから 1



ブルキナファソでは、乾季が始まっています。収穫作業が終わって間もないこの時期、やっと現地の方々の心に安心感や余裕が生まれます。そのエネルギーは、野菜栽培や様々な共同作業へと向けられ、再び忙しい毎日が始まります。プロジェクト活動も活発化し、それぞれの村で熱心な取り組みが行なわれています。

JICA 草の根技術協力事業

2012 年 7 月より、新たに JICA 草の根技術協力フォローアップ事業が開始されました。ロルガ村、タンギエマ村、タンポンガ村の 3 村での取り組みが本格化しています。

先行事業では現金収入の改善を図るため、女性を対象に家畜の「肥育」を行なっていました。本事業ではこの活動を発展させ、利益率の向上と持続性の確保を目指した「飼育」を行ないます。11 月には、3 村で雌雄合わせて計 130 頭の羊が購入されました。村内での子羊生産に取り組めます。



ロルガ村で購入された雌羊たち。



共同作業で進められるディゲット設置。

また 12 月より、農地の水分や栄養分の流出を食い止める石堤（ディゲット）の設置も、開始されました。

近隣の丘から石を運び、並べていく作業はかなりの重労働ですが、連日の炎天下にもかかわらず、男女を問わず多くの住民が集まって分担して進められました。石堤の設置によって、雨水の土の中への浸透を促すことができるため、穀物栽培にとって魅力的な農地になります。各村 20ha への設置を目指しています。

栽培地の地力改善を図るための堆肥作りも進められています。栽培時に用意される播種穴（ザイ）と併用することで、穀物の成育が良くなります。タンポンガ村では、12 月に 10 ケ所の堆肥穴が掘られました。ロルガ村とタンギエマ村では、先行事業で掘られた合計 55 ケ所の堆肥穴に、堆肥の材料であるミレットの茎や乾燥糞、灰が積み込まれました。

意欲的に活動を行なっている現地の皆さんの姿に、感嘆してばかりの毎日です。



各村で堆肥作りが進んでいます。

ブルキナファソから 2



湖岸植林プロジェクト



バイエンフルゴ村で植栽されたマンゴ。

バム湖周辺の 5 村で行なっている湖岸植林ですが、いずれも順調に進んでいます。コンディビト、クルペレ、バディノゴの 3 村では、昨年 8 月に、それぞれユーカリ 2,000 本、マンゴ 100 本の植栽を行ないました。昨年は降雨が途切れなかったため、植林サイトによっては水面下になってしまったところもありましたが、現在では、枯れ草の中で緑の葉が目立つようになっています。

また 12 月には、コラ村とバイエンフルゴ村で植林を行ないました。どちらの村でも、ユーカリ 1,960 本とマンゴ 40 本が植栽されました。このうちバイエンフルゴ村では、新規のサイトだけでなく、昨年度のサイトに対しても、成育途中に枯れてしまった苗木を補う目的で植栽が行なわれました。各村とも、これからは水やり作業で忙しくなります。

チャドから



細菌性髄膜炎(メナジット)の流行が懸念されています

細菌性髄膜炎の犠牲者は、毎年アフリカ全土で約 2 万 5 千人に上ると言われており、西アフリカ諸国でも、乾季になると決まってその発生が報告されています。特にチャドを始めとするサヘルの国々においては、ハルマッタンと呼ばれる乾燥した貿易風が吹き荒れる 12 月～2 月は感染の危険性が高く、注意が必要となります。チャドでは過去 15 年間に 5 万人以上の罹患者が出ており、そのうち約 5 千人が亡くなっています（「緑のサヘル」も、かつて何名かの現地スタッフをこの病気で失っています）。

細菌性髄膜炎の発症は急激で、激しい頭痛、高熱、嘔吐、痙攣、意識障害等を経てそのまま敗血症、ショック状態に移行することもあります。犠牲になるのは体力がない子供たちや高齢者が多く、適切な治療を受けなければ約 50%の罹患者が死に至り、早期の診断や治療が行なわれた場合でも致死率は 5～10%、また命が助かったとしても 15～20%の人々が、様々な後遺症に苦しみます。

この病気は飛沫感染するため、罹患者の抑制が発生率の低下につながります。例年 11 月から 12 月にかけて、政府による予防接種キャンペーンが始まるのですが、今回チャド北部において、予防接種を受けたにも関わらず、38 名の子供が入院する事件が起きてしまいました。現在、状況を詳しく分析するために、専門家が現地で調査をしていますが、一刻も早く適切な判断と措置がなされることを願って止みません。

国内活動 1



今期は 11 月に、毎年恒例となっている岩手県内の教育機関を中心とした講演廻り（本頁下段に記事掲載）を実施したほか、東京外国語大学の大学祭イベントの一つ、「特別セミナー・アフリカはこんなにも近い！」において講師を務める等、多くの皆さんとお話することができました。

< 東京事務局での主な活動一覧 >

• 2012 年 •

11 月	6 日(火)	盛岡市立 桜城小学校	(5 年生 58 名、6 年生 65 名)	講演	(菅川)
	7 日(水)	一戸町立 小島谷中学校	(1 年生 13 名、3 年生 13 名)	講演	(菅川)
	8 日(木)	盛岡市立 山岸小学校	(5 年生 103 名、6 年生 120 名)	講演	(菅川)
	9 日(金)	岩手県立 大槌高等学校	(2 年生 18 名、3 年生 22 名)	講演	(菅川)
	11 日(日)	緑のサヘル岩手報告会 2012 (一般参加)		講演	(菅川)
	12 日(月)	滝沢村立 滝沢東小学校	(5 年生 56 名、保護者)	講演	(菅川)
	14 日(水)	一関市立 花泉中学校		講演	(菅川)
		(1 年生 106 名、3 年生 135 名、特別支援学級)		講演	(菅川)
		(油島小学校 5 年生 11 名、6 年生 11 名)		講演	(菅川)
		岩手県教職員組合いわい支部 (教員 13 名)		講演	(菅川)
	25 日(日)	特別セミナー「アフリカはこんなにも近い！」		講演	(菅川)
		(主催：東京外国語大学アフリカゼミ)			

12 月	11 日(火)	ブルキナファソ独立記念日祝典 (主催:ブルキナファソ大使館)	出席	(岡本)
------	---------	--------------------------------	----	------

• 2013 年 •

1 月	28 日(月)	国際セミナー「変わるアフリカ、躍動する農漁村」	後援	
		(主催:社団法人 国際農林業協働協会)	報告	(菅川)

学校で講演！

「緑のサヘル」は、次代を担う子供たちや若者、その保護者や教育に携わる皆さんにアフリカの現状を伝え、私たちの生活のあり方を考えていただくため、小・中学校、高校・大学等での講演や講義に力を入れています。その一環として 1997 年以来続けている岩手県講演廻りが、今年も実施されました。



一関市立花泉中学校で、岩手出身の菅川が講演。生徒たちから多くの質問や感想が寄せられました。

9 日間で訪問した教育機関は 7 か所、約 800 名の皆さんに対して、現地の生活や問題、「緑のサヘル」の活動、現地での実体験を通して感じたこと、考えたこと等をお話することが出来ました。

昨年の震災以降の子供たちの意識の高まり、また昨年は実施出来なかった沿岸部での講演の再開等、「緑のサヘル」にとっても感慨深い講演廻りとなりました。

講演をご希望の皆様、お気軽に東京事務局にお問い合わせ下さい！

国内活動 2



去る 11 月 25 日、東京外国語大学においてアフリカゼミ主催による特別セミナー、「アフリカはこんなにも近い！」が催され、当団体の菅川が講師を務めました。



セミナーは約 20 名が参加して行なわれました。

講演では、西アフリカの風景や動植物、民族や宗教、風俗や食生活を始め、砂漠化の実態と住民による取り組み、東日本大震災に際して現地の方々から送られたお悔やみや励ましのメッセージ、映像も紹介されました。

当日は大学祭の期間中ということもあり、学生だけでなく、父兄や一般の方々も多く参加し、質問や意見が活発に交わされました。参加者の皆さん、アフリカゼミの皆さん、本当にありがとうございました！

事務局より



インターンのお別れ挨拶

インターンとして勤務していただいた鈴木怜さん、大木里美さんには、東京事務局のカレンダーの販売やホームページの更新など、たくさんの業務を支えていただきました。半年間と短い間でしたが、本当にありがとうございました！



早いものでインターン生活も終わりに近づいてきました。この半年、スタッフの皆さまに色々な事を教えていただきました。私事ですが、今年はアフリカ南部のザンビアに長期滞在を予定しております。緑のサヘルのインターン経験を活かし、ザンビアで地域開発について考察を深めていこうと思います。ありがとうございました。

(鈴木)

緑のサヘルの方々皆様優しい方ばかりでした。現地のプロジェクト、砂漠化の現状、現地の暮らしなどに関して、実際に現地に行ったことがある人でなければ語れない臨場感たっぷりの目線で教えて頂きました。個人的には農業・農法の話が面白かったです。今後も、どんな形にせよ、アフリカ、NGO、農業、環境と関わっていけたらいいなと思います。半年間お世話になりました。ありがとうございました。(大木)



ありがとうございました

* 敬称は略させて頂きました。

【 継続会員のみなさま 】

藤巻 晴行／榎本 雅子／田辺 諄児／高橋 聖子／古川 フミ子／小松 義夫／佐々木 順平
手嶋 康／佐賀 明子／今野 進／野々山 富雄／杉本 和／内山 照／宮根 恭子／加藤 和雄
木嶋 清江／梅田 暢子／山田 和也／上野 幸子／金 明希／後藤 琢雄
井上 幸子／和田 隆資／鈴木 幸子／中久保 慎一／堀越 信代／野口 鉄雄

【 新規会員のみなさま 】

立花 美江／坂本 重夫／尾上 素子

【 ご寄付を頂きました 】

浅井 賢太郎／榎本 みつ枝／小林 伸張／小笠原 弘子／賀川 麻衣／齊藤 せい子／梶野 修平
富谷 晋／鈴木 潤／内藤 篤／岩手県一関市立花泉中学校／竹中 和子／内記 悦子／田中 京子
澄田 静／丹 邦子／三浦 敦／木嶋 清江／田中 ちえ子／田辺 諄児／津田 尚子／竹越 久高
山根 貞夫／小島 訓子／那口 真理子／山野上 素充／佐藤 京子／西村 豊子／小池 昌子
片岡 稔、千尋／援助修道会 管区本部／日本聖公会 西宮聖ペテロ教会／水口 正之／松本 フミ
加納 愛子／奥田 ふみ子／サトウ イクコ／東京外国語大学アフリカゼミ／須藤 さい
前田 郁子／中込 美加恵／浪川 光代／松岡 亜湖／宮本 秀子／日本聖公会 大阪教区婦人会
信野 正夫／東海林 茂子／木野下 章／梅田 暢子／高木 眞味子／太田 弘子／青野 茂雄
福山暁の星小学校／太田 宜子／青柳 美知子／赤山 美苗／井上 進次／大段 嘉宏・紀代子
谷村 泰子／花垣 末男・正／水村 多衛子

他 匿名をご希望の方 7名

【 ハガキ・切手などをいただきました 】

岩手県立一関市立花泉中学校福祉委員会／梅田暢子／米江律子

上記は 2012 年 11 月 1 日から 2013 年 1 月 31 日までにご支援頂いた方、また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、2013 年 2 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

【 協力団体・助成団体 】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会／(独)国際協力機構(JICA)
(公財)毎日新聞東京社会事業団／(公財)イオン環境財団(環境活動助成)
緑の募金(管理団体:(社)国土緑化推進機構)／(財)国際緑化推進センター
アクトシステム株式会社／(社)日本経済団体連合会／(公信)地球環境日本基金
isave(シーブ株)／住宅エコポイント／アフリカ料理 神楽坂ドライブス
(財)農村更生協会 ハヶ岳中央農業実践大学校／(特活)国際協力 NGO センター
(特活)環境アリーナ研究機構／(特活)ハンガー・フリー・ワールド
国際連合食糧農業機関(FAO)／(社)国際農林業協働協会／(株)グリムス

画像を提供しました

・株式会社小学館

『学習まんがシリーズ「名探偵コナン推理ファイル
農業と漁業の謎」』

・相模原市立環境情報センター

『環境情報センターNEWS 冬号』

・株式会社農村文化協会

『ビジュアル大辞典 農業と人間』

「緑のサヘル」からお知らせ

インターン・ボランティア大募集!

「緑のサヘル」の東京事務局では、インターン・ボランティアを募集中! NGO を体験し、現地の問題や国際協力について学んでみませんか?

ニュースレター発送、イベント運営、カレンダーの販売など様々なお手伝いをさせていただきます。ご興味を持たれた方は、最下部に記載の緑のサヘル・東京事務局の連絡先までメールまたはお電話にてお問い合わせください!

詳細は、「緑のサヘル」ホームページ (URL: <http://sahelgreen.org/>) に記載しています。是非、ご覧ください。ご応募お待ちしております!!

Facebookのページができました!

ブルキナファソ現地事務所や東京事務局から、よりリアルタイムな情報や活動写真をお届けします。ボランティアさん、インターンスタッフさんの投稿も面白いので、ぜひ下記のURLにアクセスして、いいね!をお願いします!

Facebook をお持ちでない方も、下記ページからアクセスできますので、ぜひお試しください。

URL : <http://www.facebook.com/sahelgreen.org>

【 もくじ 】

- | | |
|----------------|-----------|
| 1..表紙 | 5..国内活動 1 |
| 2..ご挨拶 | 6..国内活動 2 |
| 3..ブルキナファソから 1 | 事務局より |
| 4..ブルキナファソから 2 | 7..ありがとう |
| チャドから | 8..お知らせ |

< 編集部より >

●ブルキナファソはハルマッタンの時期になりました。空が薄い茶色に見えます。(岡本) ●今、西アフリカ全体が揺れています。悲しくつらい思いをするのは、いつの時も庶民です。(菅川) ●真冬にブルキナファソから帰国し、日本の寒さが骨身に伝えます。(田村) ●日本で細菌性髄膜炎に罹患、1 ヶ月入院したことがあります。高熱とひどい頭痛、何よりも辛い脊髄への注射。西アフリカで流行の兆しありとのこと、予防接種等の対策の充実を願います。(本所)

ご贈答品・ご挨拶に
どうぞ

ハケ岳農場の特産品

ハケ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなど、ハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの 10 セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表のとおりです。大学校のご厚意により、お求めごとに定価の 20% が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】

郵便振替用紙に、ご依頼人様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振込みください。

00140-9-50425「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで 10 日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	ア イ ス / ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カ レ ー / チーズ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チ ー ーズ / ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

内容の詳細をご希望の方は、事務局までご連絡ください。詳細チラシをお送りいたします。

La Forêt, C'est la Vie !

Vol.53

編集 菅川拓也 岡本敏樹 本所稚佳江 田村典子 /印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 16 番地 N A S ビル 3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041